

初夏の光が満ちる職場の構内の植え込みで、今年もヒルガオが次々と花を開いています。淡い桃色の花びらは、まるで薄絹を広げたようにやわらかく、中心から放射状に伸びる白い筋が、朝の光を受けて静かな星形にも見えます。名のとおり、朝顔より遅く昼の時間帯に美しく咲くことから「昼顔」と呼ばれ、野にありながらどこか気品ある姿を見せてくれる植物です。

ヒルガオはヒルガオ科の多年草で、地下茎を伸ばして毎年同じ場所に芽を出し、周囲の低木や支柱に細いつるを巻きつけながら広がります。花期は初夏から夏にかけて長く、今の季節、構内の植え込みでもひときわ目を引く存在です。園芸植物のアサガオとよく似た漏斗形の花を持ちますが、アサガオが一年草で朝に咲くのに対し、ヒルガオは多年草で昼に花を開く点が大きな違いです。

日々行き交う通勤や仕事の足元で、こうして何気なく咲くヒルガオは、見過ごせば雑草、立ち止まれば季節の便りです。都市の構内という人工的な空間にも、野の植物はしたたかに根を張り、そのやさしい花で季節の移ろいを知らせてくれます。身近な植え込みの一角が、初夏には小さな野原へと変わる——そんな自然の力を、今年もこの昼顔たちが静かに教えてくれています。

(2026年5月中旬／文京区お茶の水女子大学構内)

